

- 1 日 時 平成23年 6月 3日 (金)
- 2 学年・組 第1学年1組 (男子17名 女子14名 計31名)
- 3 場 所 第1学年1組 教室
- 4 単 元 名 「給食から自給率について考えよう」
- 5 単元について

#### ○教材観

本単元は、給食の残食率などの資料を使っており、日々給食を食べている生徒にとっては身近なものを題材にしているためイメージしやすい。さらに資料にグラフや表を使うことによって視覚的に情報を入れやすく、生徒の思考を深めていきやすいのではないかと考える。

まずは給食の残食率の高い料理、低い料理の特徴を読み取り、自給率との関係を考えていくが、ここでは残食率と食品ごとの自給率の資料から情報を取り出す力が必要とされる。さらに自給率に関する複数の資料を参照し、そこから読み取った個々の情報を関係付け、日本の食料自給率が低下した原因を推論する。最後に導き出した原因から自給率が向上するための手立てを考えていき、新聞広告を作成することで、自らの考えを表現することを目標としている。

この一連の流れから、情報を取り出す力、情報を関係付け根拠を明確にし推論する力、それを他者へわかりやすく表現する力をつけていくことができる教材であると考え。

#### ○生徒観

本学級の生徒は入学してから2カ月が経過しており、当初は完全に打ち解けていなかった生徒同士のつながりも、体育祭への取り組みの中でクラスとして様々な活動を通して少しずつではあるが出てきた。

授業に関しては、全体的に元気はあり手のよく挙がる生徒が多い。しかし集中力が続かず騒がしくなり、授業規律の面で指導に時間を取られることもある。また、文章のように何が書いてあるのか、自分で読み取り、自分なりに解釈するといったことを苦手とする生徒が多い。しかしグラフや図のように視覚に訴えるわかりやすい形の資料からは、苦手な生徒も様々な情報を読み取りやすいように感じている。自分の考えを表現することに関しては、単純に解答のみを答える形式に対しては多くの生徒が挙手できるものの、自分の考えに理由を加えて表現したり、筋道立てて答えたりすることに対して苦手と感じる生徒が多く、挙手も減る。

#### ○指導観

指導においては、全体的に資料を読み取る際には、自分の立場つまり、自分の考えを明確化するために個人で考える時間を確保していくことが重要であると考え。残食率の高い料理と低い料理を資料の表から整理し、それらの料理に使われている食材の自給率に着目することで、分類・整理させていく。その際、必要に応じて補助資料を使うなどして数値の比較がしやすいように支援していく。自給率に関する複数の資料から、情報を取り出し、それらを関係付けていく際には、こちらから個々の資料の解説をしていくのではなく、生徒一人一人にじっくり時間を与え、読み取った情報を関係付けて考えさせる。その際に、より生徒の思考が進みやすいようにワークシートの様式を工夫していく。学習がなかなか進まない生徒については机間指導の中で資料を指定しそこから何がわかるのかを投げかけ、資料の見方を支援していく。また、グループで相談する時間を設定し、お互いの考えを交流しあうことで、他者の意見を参考にしたり自分の考えを深めたりする。そして個の考えを明確にさせたい。その際には話し合いのルールを決め、話し合いがより進みやすいようにしていく。自分の考えを表現する場面では、言語力のめあて表にもとづき、筋道を明確にし、結論に対し理由・根拠がきちんと述べられているかを確認し、もしない場合はこちらから質問を返し、理由・根拠を明確にして発表できるようにしていくことが重要と考える。

## 6 単元の目標

給食の残食率と自給率にどのような関係があるのか考え、複数の資料から読み取った情報を関係付けて、日本の食料自給率が低下した原因を推論し、それをもとに自給率を上げるための方法を伝える新聞広告を作ることができる。

## 7 単元の評価規準

情報を取り出す力	思考・判断する力	表現する力
○ 資料から「食べ残しの多かった料理」「食べ残しの少なかった料理」の特徴を読み取ることができる。	○ 読み取った情報をから、日本の食料自給率が低下した原因を2つ以上推論することができる。	○ 自給率を上げるための方法を、根拠を明確にして伝える新聞広告を作ることができる。

	学習活動	情報を取り出す力	思考・判断する力	表現する力
第1時	資料から「食べ残しの多い料理」「食べ残しの少ない料理」の特徴を読み取り、食材の自給率と関係付けて、給食の残食率と自給率の関係を考える	○		
第2時	自給率に関する複数の資料から読み取った情報を関係付けて、日本の食料自給率が低下した原因を推論する		○	
第3時	日本の食料自給率を上げるための方法を考え、自給率向上の取組を呼びかける新聞広告を作る			○
第4時	作成した新聞広告を交流し、評価する			○

## 8 第2時

### (1) 本時のねらい

資料から「食べ残しの多い料理」「食べ残しの少ない料理」の特徴を読み取り、食材の自給率と関係付けて、給食の残食率と自給率の関係を考えることができる。

### (2) 本時の評価基準

評価規準	十分満足できると判断できる基準	概ね満足できると判断できる基準	努力を要する生徒への手立て
読み取った情報から、日本の食料自給率が低下した原因を2つ以上推論することができる。 [ワークシート②]	読み取った情報を関係付けて、日本の食料自給率が低下した原因を2つ以上推論している。	読み取った情報から、日本の食料自給率が低下した原因を2つ以上推論している。	机間指導の中で資料を絞ってそこから何が分かるかを問いかけたり、資料の見方を個別に支援する。

### (3) 準備物

ワークシート②

掲示資料①, ②, ③, ④, ⑥

(4) 指導過程

	主な発問・指示	学習活動	教師の指導と評価
導入	<p>(1) 本時の課題を把握する。</p> <p>◆ 給食の残食率と自給率にはどんな関係がありましたか。</p> <p>◆ 他国と比べて、日本の自給率はどのように変化していますか。</p> <p>◆ なぜ日本の自給率は低くなってしまったのか、原因を考えましょう。</p> <p>本時の課題：日本の自給率が低下した原因を推論する。</p>	<p>□ 残食率が低い料理の食材は、自給率が高い。</p> <p>□ 残食率が高い料理の食材は、自給率が低い。</p> <p>□ 昭和 36 年の頃には 90%近く自給率があったが、平成 19 年には 40%まで下がっている。</p> <p>□ グラフの国の中で自給率がこれほど減少しているのは日本だけ。</p>	<p>○ 前時の学習の確認をする。</p> <p>○ 資料 3 ①を提示する。</p> <p>○ 数名に発表させる。</p> <p>○ 本時の課題を板書する。</p>
展開	<p>(2) 日本の自給率が低下した原因を推論する。</p> <p>◆ 資料 2・資料 3 ①～⑥から情報を読み取り、自給率が低くなった原因を 2 つ以上考えましょう。</p> <p>◆ グループで交流しましょう。</p>	<p>□ ①自給率の式から考えると、日本で作られる食糧が減ったか、供給される食糧が増えたか、どちらかが考えられる。</p> <p>□ ②大豆の生産量は低いままで変わらないが、輸入量は昭和 60 年にかけて急速に伸び、その後高いままだ。</p> <p>□ ③40 年前に比べると、肉・植物油を摂る量がどれも約 3 倍増えており、ごはん・野菜を摂る量が減っている。</p> <p>□ ④供給された食料のカロリーは増えているのに、実際に食べた食物のカロリーは減っている。2 本の線の差は「食べ残し」で、食べ残しが増えているということだ。</p> <p>□ ⑤外食チェーンでは安さと安定供給を求めて輸入食材を使っている。</p> <p>□ ⑥外食をする割合は毎年増えている。</p> <p>□ ②と③を繋げると、大豆の生産量は低いままで変わらないのに、大豆を使った植物油を取る量が増えている。作る量が変わらず、食べる量が増えると自給率は下がることになる。</p> <p>□ ③と④を繋げると、供給された食料のカロリーは増えているのに、実際に食べた食物のカロリーは減っている。必要以上の食べ物が供給されていて、しかもその食材には自給率の低い肉や油が多く使われている。だから自給率が下がることになる。</p> <p>□ ⑤と⑥を繋げると、輸入食材を使っている外食チェーンなどで外食をする割合が毎年増えているので自給率は下がることになる。</p>	<p>○ 個人でじっくり考えさせる。</p> <p>○ ワークシートの書き方を説明する。</p> <p>○ 資料は一括提示する。</p> <p>○ 一つ一つの資料をていねいに解説するのではなく、生徒自身に読み取らせていくようにする。</p> <p>○ 資料全体を読み取らせる時間を十分に確保し、読み取った複数の情報を関係付けて考えさせるようにする。</p> <p>○ わかりにくい資料については、机間指導して、生徒の実態に合わせて支援していくようにする。</p> <p>○ 学習が進まない生徒へは、「資料 ③から何がわかるか考えてみよう」と投げかけたり、資料の見方の支援をする。</p> <p>○ 自分の考えの曖昧な所を確認させたり、人の考えを参考にさせたりする。</p> <p>○ 他の生徒の意見を参考にし、新しい発見があればワークシートに書き加えさせる。</p> <p>○ 机間指導により、各グループの意見交流の状況を見取り、全体で取り上げたい意見等を選んでおく。</p> <p>○ 話し合いに際しては、司会を決め、順番に 1 人ずつ意見を言い合うなどのルールを指定する。</p>

展開	<p>◆ 考えたことを発表しましょう。</p>	<p>□ <u>私たちの食生活が変わったから</u>自給率が下がったのだと思います。資料3②で、大豆の生産量は低いままで輸入に頼っているのに、資料3③では、大豆を原料とする植物油を取る量が40年前の約3倍に増えています。日本で作る量が変わらないのに、食べる量が増えたので自給率は下がったのだと思います。</p> <p>□ <u>外食する割合が増えたから</u>自給率が下がったのだと思います。資料3⑥によると、外食の割合が年々増えています。資料3⑤で、外食チェーンは安さと安定供給を求めて輸入食材を使っているため、外食が増えると自給率は下がります。</p> <p>□ <u>食べ残しが多くなったから</u>（余計な食料の供給が増えているから）自給率が下がったのだと思います。資料3④によると、実際に食べるカロリーよりも多くの食料が供給されており、しかも供給される食料のカロリーは少しずつ増えています。資料3③のように、自給率の低い肉や油を多く使った料理が必要以上に供給されているので自給率は下がります。</p>	<p>○ 資料を使って説明させる。</p> <p><b>言語力の目当て表から</b></p> <p>○ 根拠が明確でなかったり、結論がなかったりする場合は、必ず質問を発表者に返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「つまりどういうことですか？」（結論）</li> <li>・ 「なぜそう考えたの？」（根拠）</li> <li>・ 「他の人はどう思いますか？」（付け足し、修正）</li> </ul> <p>◎ 読み取った情報から、日本の食料自給率が低下した原因を2つ以上推論することができる。（思：ワークシート）</p>
まとめ		<p>(3) 本時を振り返り、次時の課題を知る。</p> <p>◆ 資料から日本の自給率が低下した原因を考えることができました。</p> <p>◆ 次の時間は、自給率を上げるための方法を考えます。</p>	<p>○ 授業を振り返らせ、評価する。</p> <p>○ 次時の見通しをもたせる。</p>

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">提示資料</div> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; margin-top: 10px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">日本の自給率が低下した原因を考えよう</div> <p style="margin-left: 20px;">資料から分かったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ～</li> <li>・ ～</li> <li>・ ～</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">自給率が低下した原因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ～</li> <li>・ ～</li> </ul>
---	--